

龍蛇にまつわる民話伝説

民話伝説集成 南信編より

発行所 一草舎出版

編著者 宮下和男

発行 2005年12月20日

- P16 音坊鯰 P38 尾掛松 P41 大蛇の弓 P52 お諏訪様の入
信 P60 宝殿の雫 (天流の井) P100 白蛇の恩返し P128 漆
戸淵の祟り P130 竜宮塚 P170 七面様 P186 天つ速駒
P190 濃ヶ池 P209 小鍛冶の矢文 P210 河童の妙薬
P232 井戸で鳴く鶏 P290 文永寺の釣鐘 P338 清内路の蛇塚
P358 蛇出しヶ池 P360 蛇峠の池 P374 鱒ヶ淵 P381 白
竜様 P382 竜にとりつかれた鐘 P396 深見の池 P402 龍神
様 P416 檜原川の洞穴

以上 24話 / 212話 に竜蛇が出てくる

諏訪七不思議

1 御神渡り

毎年、諏訪湖一面に氷が張り始めてから4,5日経つと、一夜のうちに氷の表面に5尺(約1.5m)の巾ぐらいの山脈のような盛り上がりが出て、上の宮のある中州村の湖畔から、下の宮の浜まで続くのである。これが「湖水神幸」といわれ、上の宮の建御名方命が、下の宮の八坂刀売命の許に通われる印であると言いつたされている。そして、この地方の人達は、昔からこの御神渡りの方向によって、その年の豊凶を占う習わしとなっているという。すなわち、この御神渡りが下は大和の浜から南明神様の辺までならば豊作の前兆で、それが天竜口弁天島辺への御神渡りとなれば不吉の兆しであるとされている。また、人馬の湖上往来もこの神幸が済んだ後でなければならぬという言い伝えもある。

民話伝説集成 中信編より → 小宮川系

発行所 一草舎出版 編集者 はまみつを 発行 2006年2月2日
地域 安曇野 松本平 木曾谷

P56 大工と大蛇 P60 仏崎観音と泉小太郎 P84 渡蟻落とし
P109 犀宮社 P110 竜門淵 P120 お玉柳 P167 差切峡の白蛇
P179 大洞さま P183 犀竜泉小太郎 P218 続麻神社
P233 田溝池の大蛇 P249 竜田の石 P267 泉小太郎 P356 巴淵
P358 濃ヶ池 P390 蛇ヶ淵
以上 16話/ 233話に龍蛇が出てくる

参考

街道にまつわる話 (旅人、落人、商人等) 中山道にまつわる

P20 西方堂 P46 静の桜 P70 霊松寺の和尚 P81 佐々木成政と
おんば様 P104 舟方さまと鈴虫 P112 平家谷 P122 黒沢不動
尊 P134 六部塚 P158 お仙の茶屋 P224 兎田 P234 稚児池
P236 保福寺峠 P238 商人石 P257 大師堂 P259 秀網郷
P264 柏木の御堂 P276 仏久保 P293 花山法皇の石仏 P303 君
石 P322 桔梗ヶ原 P325 琵琶橋 P331 マリア地蔵尊 P344
鳥居峠 P350 サイトリサシ P360 権兵衛街道 P373 阿古太丸
P392 三浦太夫 P395 せどおねの湯 P410 姫淵 P420 岩出観音
P430 倉科祖霊社 31話/233話

玄蕃之丞 (狐)

P65 田んぼの芝居 P118 日光寺の狐 P162 狐の嫁入り P212
あま池 P279 横手ヶ崎の狐 P288 横手のお稻荷様 P289 お夏
祭 P294 玄蕃稻荷様社 村上玄蕃之丞定行 P304 おいねどんちゃ
ん P338 桔梗ヶ原の玄蕃之丞狐 P370 おまっしゃ狐 P377 興
禅寺の狐 P435 狐膏薬 13話/233話

山姥

P22 牛方と山姥 P52 大姥山の金時 P123 黒沢小僧 P135 常念
坊 P365 焼棚山の山姥 P426 なきそ岳の山姥 6話/233話

八面大王

P144 満願寺のお小僧火
清水寺

P147 大塚様

4話/233話

P271 若沢寺

P285

河童

P35 カッパの水神薬

P320 赤淵

2話/233話